

弁天町駅周辺まちづくりビジョン（案） 概要版

1. ビジョンの目的・検討範囲

大阪市港区の東部に位置する弁天町駅周辺は、JR大阪環状線及びOsaka Metro中央線の結節点であり、国道43号と中央大通が交差する交通の要衝地である。また、2025年開催の大阪・関西万博やIR誘致の決定により、ベイエリア（＝ニシ）とともにそこに至る結節点として弁天町駅周辺への注目度が非常に高まっている。

一方、駅に近接する大規模用地が未利用の状況が続いていることに加え、幹線道路がエリアを分断しているなどの課題がある。

このような状況のもと、区民・事業者・行政がまちの将来像を共有し、協働して弁天町駅周辺のまちづくりを推進していくことを目的として、「弁天町駅周辺まちづくりビジョン」を策定することとする。

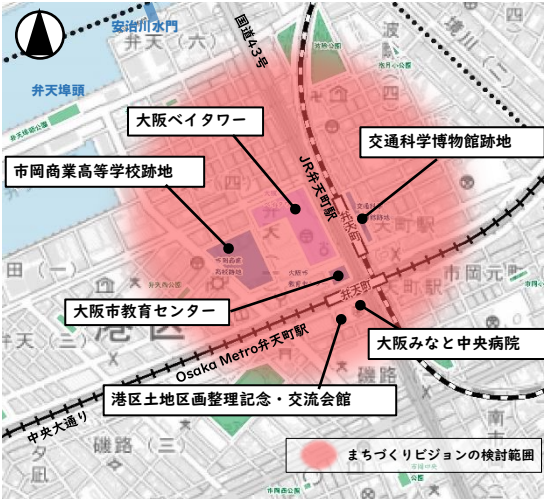
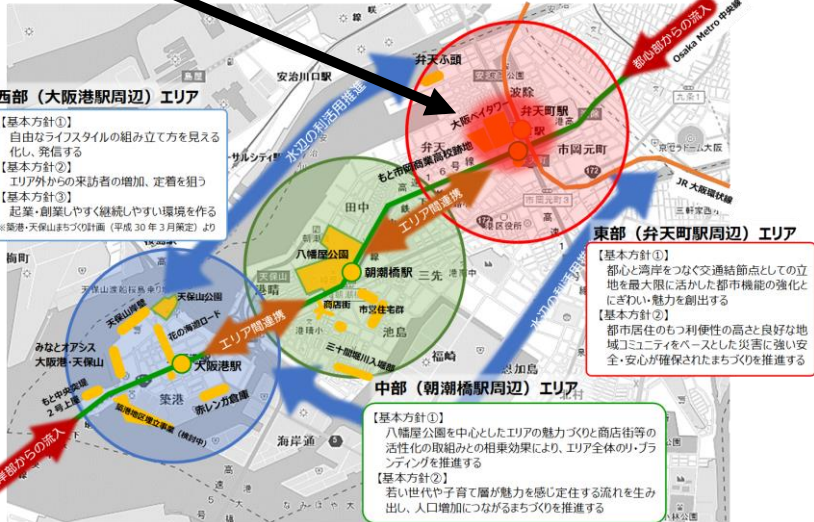


図 まちづくりビジョンの検討範囲

2. 弁天町駅周辺の現況 ～上位計画・関連計画等の位置づけ～

- 大阪のまちづくりグランドデザイン（大阪府・大阪市・堺市）において、国際観光・交流拠点の形成をめざすベイエリア（夢洲・咲洲エリア）と都心部の結節点に位置し、「ニシの玄関口」のポジションにある。
- 港区エリア別活性化プラン（港区）において、弁天町駅周辺のまちづくりの方向性として、「安全安心を確保しつつ、都市機能の強化、にぎわい魅力創出」を掲げている。

弁天町



3. まちづくりの特徴

■公民連携によりつくられたまち

- 江戸時代、幕府の許可を受けた町人による新田開発（町人請負新田）により海だった場所が陸地化された。
- 戦災により市内で最も大きな被害を受けた港区においては、区域の大半で戦災復興区画整理事業が実施され、地権者の協力のもと良好な都市基盤が形成された。その際、平均2mの盛土を行い高潮被害を克服するとともに、安治川の内港化により弁天埠頭が整備された。
- 平成5年にORC200（現在のOSAKA BAY TOWER）が建設され、民間活力の導入により駅周辺が開発された。
- 現在では、事業連携協定の締結等により、区役所と企業、商工団体などが連携し、様々な分野でまちづくりに取り組んでいる。

4. 現状分析

ポテンシャル

- 【交通】JR大阪環状線とOsaka Metro中央線の結節点となっており、平日で約5万人が駅を利用するなど交通の要衝地。
- 【都市機能】大阪ベイタワーや港区土地区画整理記念・交流会館（R6.4開業予定）などの都市機能が駅と直結。
- 【土地利用】市岡商業高等学校跡地をはじめ、まちづくりに活用可能なまとまった未利用地が駅に近接。
- 【国際観光】国際観光・交流拠点の形成をめざす夢洲・咲洲エリアの開発（万博・IR）により、国内外から来街者の増加が期待。
- 【多文化共存】外国人人口の増加率が市平均を上回っており、今後のベイエリアでの開発推進により更なる増加が見込まれる。

問題

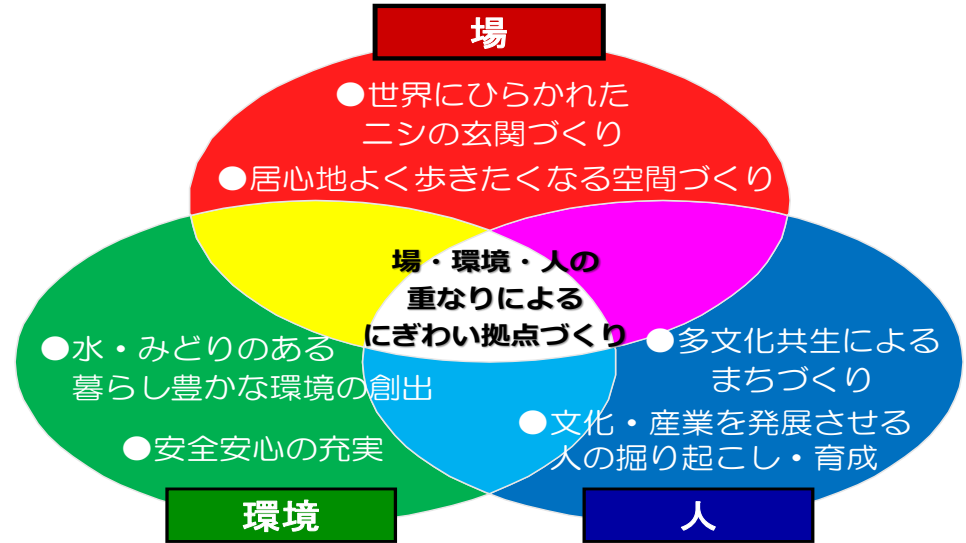
- 【人口】区全体は人口減少するなか、弁天町駅周辺に人口が集中し、人口分布に偏りがある。高齢化率は市平均より高く、少子高齢化が他区より進行している。
- 【防災】南海トラフ巨大地震による津波により、0.5m～3.0mの浸水が想定されている。
- 【歩行者ネットワーク】鉄道や高速道路が複雑に立体交差し、国道43号や中央大通の幹線道路が地域を分断している。
- 【地域活性化】一日当たり約5万人が駅を利用しているものの、乗り換えが多数を占め、単なる通過地となっている。
- 【水みどり】新・大阪市緑の基本計画では、“みどりのネットワーク”を構築することを掲げており、弁天町は「みちみどりのネットワーク」および「鉄道みどりのネットワーク」の交点となっていることから、更なるみどりの確保が求められる。

5. 弁天町駅周辺まちづくりコンセプト

特徴や現状分析から導かれる取組の方向性	めざすまちの姿	コンセプト
- 国際観光・交流拠点の形成をめざすニシの玄関口にふさわしい、質の高い都市空間の形成 - 駅から降りて立ち寄ってもらえる仕掛けや、区全体への人口増加へ資する弁天町駅周辺にとどまらない地域に波及効果のあるにぎわい拠点の形成	ニシの玄関口にふさわしく、地域への波及効果にもつながるにぎわいで、来街者にも地域にもひらかれたまち	「世界にひらかれたニシの玄関づくり」
- みどりを接続し、大阪市全体のみどりのネットワークを繋げる - 戦災や高潮被害を克服し、安全安心のまちづくりを進めてきた経験を踏まえた更なる防災機能の強化 - 幹線道路によるまちの分断を解消し、駅周辺が一体となった回遊性向上の推進	駅を起点として周辺へとにぎわいが広がっていくよう、公民が連携して、ウォーカブルな空間を創出するまち	「居心地よく歩きたくなる空間づくり」
- 今後の外国人人口の増加を見据えた多文化共生の環境づくり - これからのまちづくりの担い手になる若年層や子育て層が魅力を感じるまちづくり - 新田開発や土地区画整理事業など、民と公が手を取り合いまちを作ってきた公民連携によるまちづくりの継承	- ニシの玄関口弁天町として、水・みどりのある暮らしを発信する、自然に配慮したまち - 過去の経験を活かし、安全安心に港区民が暮らすための拠点である都心機能の充実が図られるまち - 港文化ともいえる多様性を強化し、まちづくりに生かす多文化が交わるノーマライゼーションを実践するまち - 新たな文化や産業を生み出してきた港の歴史を継承する人を掘り起こし育成していくまち	「水・みどりのある暮らし豊かな環境の創出」 「安全安心の充実」 「多文化共生によるまちづくり」 「文化・産業を発展させる人の掘り起こし・育成」

場・環境・人が重なる輝く弁天町

～大阪のニシの玄関口にふさわしい拠点形成をめざして～



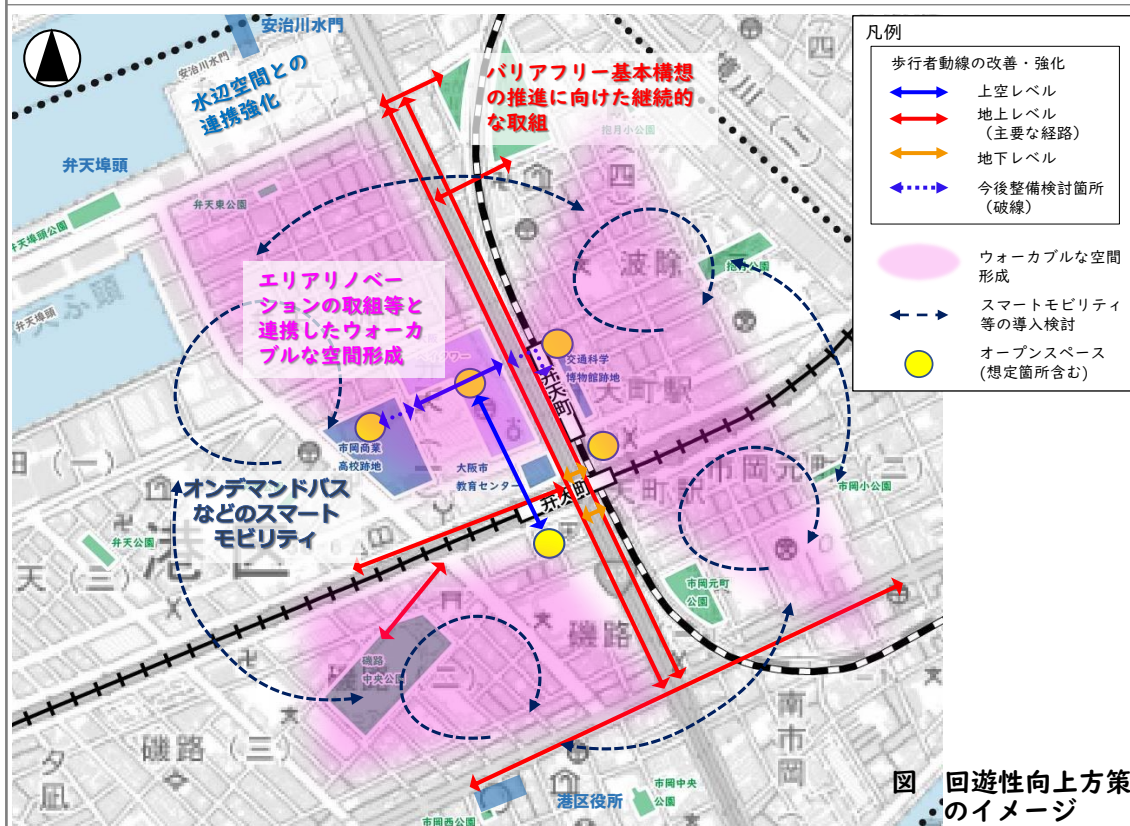
6. まちづくりの基本的な考え方

(1) 土地利用・空間形成の方向性



・「国際拠点ベイエリアとの連携強化」「地域交流拠点の形成強化」「エリアリノベーションの推進」の3つのエリアを設定し、それぞれの取組を推進する。
※エリアリノベーションとは、共感者と共に老朽化した建物の再活用など実験的に小さな取組を繰り返し、少しずつエリアに変化を起こすことでエリアの価値を向上させるまちづくりの手法

(2) 回遊性の向上



・バリアフリー基本構想の推進に向けて、上空、地上、地下レベルでの更なる動線確保に努める。
・エリアリノベーションの取組と連携したウォーカブルな空間形成の推進や駅周辺地域の回遊性を高めるためスマートモビリティ等の活用をめざす。

7. 取組イメージ

(1) 世界にひらかれたニシの玄関づくり

国際拠点ベイエリアとの連携

- ・国内外からベイエリアを訪れる多くの人々の流れを受け止め、にぎわいの強化につながる未利用地の活用 (1-1)
- ・ニシの玄関口にふさわしい駅周辺の高度利用や高質な空間形成の推進 (1-2)
- ・多様な人々が楽しみ触れ合える駅周辺の既存飲食店等の活性化 (1-3)

参考：大阪ベイトワー2階
アトリウム広場



来街者と地域をつなぐ交流機能の強化

- ・地域住民や来街者が憩いくつろげる地域の価値向上に貢献し、将来的なまちづくりニーズの変化に対応できるオープンスペースの充実 (1-4)
- ・港区土地区画整理記念・交流会館を核とした多世代交流拠点づくり (1-5)

場

(2) 居心地よく歩きたくなる空間づくり

公共空間の創出・連携

- ・公共施設や民間施設のオープンスペース（広場など）の充実に加え、道路、公園、鉄道駅との連携によるウォーカブルな空間の形成 (2-1)
- ・新たなモビリティを含む交通結節点にふさわしい港区の顔となる駅前空間の創出 (2-2)

歩行者動線の改善・強化

- ・国道43号地下道のエレベーター整備、JR弁天町駅と大阪ベイトワーとの連続性の確保 (2-3)



参考：大名小学校跡地
活用事業
(福岡市HP)

(3) 水・みどりのある暮らし豊かな環境の創出

産官学の連携による都市緑化の推進

- ・市岡商業高等学校跡地等の未利用地の活用に使った、うるおいあるみどり空間の創出 (3-1)
- ・産官学との連携による緑化活動の推進 (3-2)
- ・国道43号沿道の環境改善の継続 (3-3)

親水性の向上

- ・安治川水門の更新に使った水辺空間のにぎわい形成 (3-4)

参考：学生による庭づくりの様子
(コミュニティガーデン・筑波大学)



環境

(4) 安全安心の充実

安全安心な地域内移動の確保

- ・近隣交通ネットワークの中心である自転車・徒歩に加え、オンデマンドバスやシェアモビリティ等のスマートモビリティで、エリア間の移動円滑化を推進 (4-1)

防災能力の向上

- ・地域住民だけでなく来街者も含めた防災能力向上に向けた津波避難機能や備蓄機能などの更なる充実（未利用地の活用、民間協力の呼びかけ等） (4-2)



参考：大阪メトロ
オンデマンドバス

(5) 多文化共生によるまちづくり

多文化共生に寄与する活動の推進

- ・居住する外国人や国外から訪れる人々が安心して暮らし楽しめる活動の推進 (5-1)
- ・地域活性化につながる外国人住民と地域住民の相互理解・交流の促進 (5-2)
- ・多様な人々が集いにぎわう多文化共生拠点づくり (5-3)

参考：港区での多文化カフェの様子
(港区Youtubeより)



(6) 文化・産業を発展させる人の掘り起こし・育成

人

まちづくりを支える人の発掘・連携

- ・オープンスペースを活用し、地域のキーパーソンの発掘を目指した社会実験の実施 (6-1)
- ・持続的なまちづくりに向け、外国人を含む地域住民・行政に加えて、駅周辺の民間事業者が相互に連携し、小さな試行と対話を繰り返し、共同体意識を醸成 (6-2)

文化・産業の発展

- ・区と民間企業との連携協定を活用し、若者層や外国人との交流にも寄与するコスプレイベントを実施するなど、新たな文化を発信 (6-3)
- ・ものづくり企業とベンチャー企業との連携により、古くからある町工場の技術を活かした産業の創出と次世代育成を支援 (6-4)
- ・弁天町（港町）の特徴（古くからある‘モノづくり’と新しい文化の共創）を活かし、既存都市ストックを活用したまちづくりの実践 (6-5)



参考：新たな文化の発信事例
(提供：株式会社ハコスタ)

8. まちづくりのロードマップ（主なもの）

	短期(万博まで)	中期(IR開業まで)	長期(IR開業後)
場	未利用地の暫定活用など万博に使ったにぎわいづくり (1-1)	未利用地の本格活用によるにぎわい拠点形成・オープンスペースの充実 (1-1,1-4)	
環境	国道43号沿道の環境改善 (3-3)	産官学連携した緑化活動の推進・未利用地の活用に使ったうるおいあるみどり空間の創出 (3-1,3-2)	
人	外国人居住者や観光客に向けた活動の推進・地域と多文化の交流促進 (5-1,5-2)	多文化共生拠点づくり (5-3)	

※本ビジョンの実現にあたっては、都市計画決定・変更の手続きが必要になる可能性がある。